

1 まちづくりの基本理念と将来像

まちづくりの基本理念

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で犠牲になった多くの市民への鎮魂の想いをまちづくりの出発点に、未来に誇れるまちを次代を担う世代に継承できるよう、私たちは、復興後のまちのあり様を思い描きながら、一步一步復興完遂に向かって歩みを進め続けてまいりました。

しかしながら、日本全体で人口減少が進行しており、当市においても10年前の平成22年に39,574人だった人口は、現在は32,247人まで減少し、今後も人口減少と少子高齢化が進行する中で、多様化していく課題に対応していく必要があります。

この第六次釜石市総合計画は、市民62人で構成する「かまいし未来づくり委員会」を中心に策定を進めてまいりました。計画策定に当たっては、10年後のまちづくりに向けて、理想とする将来像を描き、その未来から現在を振り返って、今やるべきことを見つけていく「バックキャスティング」のアプローチにより検討を進めてきました。

62人の委員が10年後の理想的な姿を描き、「どんなまちなら誰もが幸せに暮らすことができるのか」の視点で地域の未来を考えることは、「誰一人取り残さない」持続可能な地域を目指すSDGsの理念と通じるものがあります。

こうした取組を通じて、東日本大震災からの復興完遂後の新たな地域社会を作りあげていく上で私たちが目指すべきことが三つあると考えます。

一つ目は、「一人ひとりの幸せの実現」です。一人ひとりが生きがいを持って安心して暮らせるよう、その地域に住む人それぞれが主体的に取り組み、人と人とのつながりの中で、学びあいながら住まう幸せを実感できる地域を目指します。

二つ目は、「危機対応と希望の追求」です。当市は、これまでも幾多の災害や経済的な危機に直面してきましたが、その都度「撓まず屈せず」の精神で乗り越えてきました。これから発生する新たな危機にも、過去の経験に学び、しっかりと向き合い、怯むことなくあらゆる分野で挑戦し続けられ、次の世代にも希望ある地域を目指します。

三つ目は、「釜石発の新しい価値観」です。当市には、豊かな山や海、先人たちがこれまで培ってきた輝かしい歴史、東日本大震災からの復興のプロセスを通じて得た世界中の人とのつながりや絆など、釜石にしかない宝があります。豊かな自然に囲まれながら多様なつながりの中で、一人ひとりが自分らしい生き方の価値を見出し、それを地域全体で認め合うことの価値観が大切です。「人がまちをつくり、まちが人をつくる」循環の中で、そうした価値観が育まれる地域を目指します。

こうしたまちづくりに一丸となって取り組み、新しい時代を切り拓いていくことを本計画における基本理念とします。

1 まちづくりの基本理念と将来像

目指す釜石の将来像

10年後のまちのあるべき状態を表す将来像

一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし

10年後のまちのあるべき姿を実現するための姿勢を表す将来像

～多様性を認めあいながら トライし続ける不屈のまち～

目指すべき将来像は、市民62人で構成される「かまいし未来づくり委員会」において、当市の将来を見据え、目指すべき将来の姿はどうあるべきか、大事な価値観は何かの議論を通じ、委員の思いや言葉を紡いで定めたものです。

当市は、これまでも自然災害や経済的な危機など幾多の困難に見舞われてきましたが、東日本大震災においても、復興に向かって市民一丸となって取り組んだように、撓まず屈せずの精神の下、その都度復興を成し遂げてまいりました。これから起こりうるであろう新たな危機にも、しっかりと向きあい、対応していく必要があります。

東日本大震災からの復興やラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催のプロセスにおいて、日本中・世界中とのつながりを育む機会に恵まれました。これらを生かし、更に新たな世界を広げることで、一人ひとりの可能性、地域の可能性を広げ、希望が連鎖し、活力にあふれる未来を創り続けます。

将来像に掲げる「学ぶ」とは、「力を新たに身につけ、新たな世界を広げること」です。一人ひとりが学びを通じて成長する喜びを感じ、学びあうことによってより多くの心に火を灯し、やがて地域全体に広がることで、学ぶこと即ち「新たな世界を広げること」の幸せを実感できる地域の構築を目指します。

様々な人、様々な生き方や働き方を尊重し、多様な価値観を認め合うこと、様々なことに挑戦し、決してあきらめないことを市民の基本姿勢としながら、時代の変化にしながらに対応し、「一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし」の実現に向け、全市民参加で取り組んでいきます。

○ 目指す釜石の将来像に込める思い（かまいし未来づくり委員会提言書より抜粋）

- ・釜石のことを自分事として一人ひとりが主体性を持つこと。ONE チーム精神が釜石に根付くことを願っています。みんなが主役。
- ・釜石が一つとなって未来に向かって前進しようという願いを込めて。
- ・標語的に主役はやはり市民であるべきと表わしたほうが良いと思う。
- ・釜石を自分事として考えていくのはまちにとって大事。
- ・釜石に住む方全員がヒーローになることでだれもが強く生きられると思う。
- ・市民一人ひとりを誰も取りこぼすことなくみんながみんなのために当事者意識をもってまちの未来を創っていく意思表示。
- ・一人ひとりが幸せで自分らしく生きられるまち。そしてそのために助け合い、思いやり、支えあうまち釜石。
- ・みんなで未来の釜石を一緒につくる、つくりたいという思いを込めて。
- ・先人の郷土愛と共に。
- ・年齢・性別関係なくつながりを大切にしたい。
- ・まちをつくるのは行政でも民間でもなく「わたしたち」。誰でもまちをつくる欠けてはいけない要素である。
- ・次の10年も釜石は鉄のような強くもありしなやかに、信念を持ちながらも時代に合わせた変化をできるまちになってほしい。
- ・様々な人、様々な生き方や働き方を受け入れて認め合う事が大事。現状に甘んじないで挑戦していく気持ちを忘れないで取り組んでほしい。
- ・これからは多様な価値観を認め合う時代です。自分と違うから面白い、素晴らしいと思えるまちにしたいですね。成功事例はそれぞれで良い。
- ・常に変化を恐れず、成長を続け生き残っていく人々であり、まちでありたい。
- ・鉄は廃れる。1つのものに頼るのではなく（＝しなやかに）まちづくりにトライしていくイメージが良いと思った。
- ・釜石内外も含めた多様な人がお互いを高めあいながら釜石の挑戦を続けていってほしいと思った。
- ・鉄の歴史、戦災、自然災害からの復興は挑戦し続けた結果、誰もがみんながではなく多様を認めるとしたのが新しい観点。
- ・「みんな」という言葉に苦手感があるのが今の若者たちかなと思う。まちに「多様」を認めてもらえるということは安心して守られている気持ちを持てるような言葉だと思います。
- ・ひとりとはみんなのために、みんなは釜石のために。
- ・個人の思いが認められる優しい世界、共感が力になりまちを支える動力に。支えあいと挑戦。

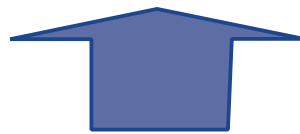
2 まちづくりの展開

まちづくりの基本方向の体系

一人ひとりが学びあい

世界とつながり未来を創るまちかまいし

～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～



計画の推進

全市民参加でつくるまち
(協働によるまちづくりの推進)

多様な連携と交流によるまち
(地方創生・多文化共生・広域連携の推進)

効率的・安定的な行財政運営ができるまち
(行財政改革の推進)

まちづくりの基本目標

あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

人と自然が共存し安心して暮らせるまち

未来をつくる人と産業が育つまち

地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

過去に学びみんなが命を守れるまち



計画の推進

復興まちづくり基本計画の成果や課題を踏まえ、基本構想を推進し、将来像を実現していくためには、少子高齢化と人口減少、市民ニーズの多様化、厳しい財政状況などを踏まえながら、取組を進めていく必要があります。

このため、第六次釜石市総合計画においては、市民と行政による協働のまちづくりを進めるとともに、相乗効果を生む多様な連携と交流の推進を図り、徹底した行財政改革を進め、社会情勢や経済状況の変化に対応できるまちづくりに努めます。

全市民参加でつくるまち ～協働によるまちづくりの推進～

全ての人がまちづくりに参画し、希望にあふれたまちを目指すため、これまで築いてきた各地区応援センター及び地域会議を中心に、自助・共助・公助による地域づくりを一層推進します。また、行政、企業、職能団体、NPO、市民団体等多様な主体がそれぞれの価値観・役割に応じて、テクノロジー*等も活用しながら、まちについてともに考え、ともに活動する環境の構築を目指します。

多様な連携と交流によるまち ～地方創生・多文化共生・広域連携の推進～

釜石市オープンシティ戦略の基本理念である「市民一人ひとりが役割を持つ、真に開かれたまち」の実現に向け、釜石市内外の多様な人々とのつながりにより新たな事業機会やコミュニティが育まれ、希望が連鎖し、活力につながる地域社会の形成を目指します。

異なる考えや意見に寛容で、かつ変化や困難を受容する再起力の高い開かれた社会の構築を目指すとともに、東日本大震災後大きく進展した交通ネットワークや多様なつながりを生かし、周辺自治体をはじめ様々な連携により、三陸の交流拠点として地域の魅力を高める取組を推進します。

効率的・安定的な行財政運営ができるまち ～行財政改革の推進～

一層厳しくなる財政状況を踏まえ、実施する事業をより慎重に選択するほか、既存施設の有効活用や、必要性を見極めた施設の統廃合を進めていきます。また、多様化、複雑化する市民ニーズや変わりゆく時代に対応するため、新市庁舎を整備し、先端技術やテクノロジーの活用等による業務改善に努め、戦略的な行政運営の下、組織全体の生産性を向上させていきます。

重点施策

少子化対策、移住定住の推進

出会い・結婚・出産・子育ての各ステージに応じた切れ目のない支援策を講じて、少子化に歯止めをかけるとともに、市民が暮らしやすく、将来にわたって暮らし続けたいと思えるまちづくりと移住希望者のニーズに的確に応えられる体制を整備します。併せて、高等教育機関等と連携した若者の定着に向けた取組を推進します。

健康寿命日本一へのトライ

地域や年齢を越えて、誰もが自分らしく、身体的な健康寿命を延ばしてだけでなく、社会活動や個々の行動の中で健康への関心を高め、脳卒中死亡率最下位からの脱却、がんや心疾患の死亡率の低下を目指した取組を推進します。

地域の特性を踏まえた持続可能な交通体系の構築

市民の日常生活における移動実態・ニーズの変化に対応しながら、持続可能な交通体系の構築に向け、行政、交通事業者のみならず、企業や市民等と一体となった運営体制を検討していきます。

あらゆる産業の人材育成と多様な働き方の推進

一次産業の担い手の確保・育成や商工業者の人材育成に向けた取組の推進により地域産業の活性化を図るとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方ができる職場づくりを推進します。

新たな分野への挑戦と国際貿易を通じた未来産業の集積

新産業創出に向けた取組や地域企業の新分野への挑戦を支援するとともに、高規格道路ネットワークと釜石港という地理的優位性を生かした企業誘致により、物流関連産業や輸出産業等の集積を図ります。

三陸・釜石の特色を生かした観光振興

釜石オープン・フィールド・ミュージアム*構想の推進を図り、市民の参加性を高めて一体感を醸成し、「地域の宝」を再発見する過程を通じて、市民に「住まう誇り」を呼び戻すとともに、滞在交流型観光*システムを推進していきます。

ICT、オンラインなどを活用した学びの多様性の実現

生涯学習や各種講義、学校教育などあらゆる分野において、オンライン等を活用した多様な学びの環境を整え、全ての人がライフステージに応じて学ぶことができる環境の構築を目指します。

釜石らしさを生かした育ちのデザイン

防災教育を核とした「いのちの教育」やラグビー、世界遺産・橋野鉄鉱山を含めた釜石市の歴史・文化などを通じて子どもたちの郷土愛を醸成し、釜石の発展を支える次代の人材を育成します。

「ラグビーのまち釜石」の推進

ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会岩手・釜石開催のレガシーを未来に継承するため、子どもたちへのラグビーの普及、選手やクラブの育成強化、釜石鶴住居復興スタジアムの有効活用など、ラグビーを生かしたまちづくりを推進していきます。

自助・共助・公助による防災まちづくりの推進

市民一人ひとりが命の尊さについて考え、行動できるように、地域防災力の向上に向け、防災リーダーとして期待される防災士の養成を継続するとともに、防災意識の醸成と災害に対する知識の向上に努めます。



いきいき 100 歳体操リーダー交流会



釜石市小学校対抗タグラグビー大会